

わたしたちが 作っています。



はまだ のりこ
浜田 典子さん

いつも身近において 利用してほしい

いろいろな情報がまとまっていて、いつも身近において利用できるものがあればいいなと思います。参加しました。早く取材に応じてくれる方が多く、その志から学ぶことがたくさんありました。



はたけやま いくこ
畠山 征子さん

外出のきっかけになれば

高齢の方には、どんどん外に出て、趣味を楽しんだり、同じ趣味を持つ方と交流をしてもらいたい。そんな思いを込めて、趣味を楽しめるお店も紹介しています。「きよたん」が外に出るきっかけになるといいですね。



やまもと けんのしん
山本 顕之進さん

不安を抱える方の役に 立てるものを作りたい

「こんなときはどうしたらいいのだろう、どこに連絡したらいいのだろう」と不安を抱えている方はたくさんいます。そういう方の役に立てるようなものを作りたいと思っています。



里塚・美しが丘
地区センター
しまだ しゅうじ
島田 修二 館長

高齢者がいいなと 思える場所をつくりたい

高齢者がいいなと思える場所が地域でもっと増えていってほしいと思います。地区センターも、もっと多くの方に来ていただいて、くつろいでもらえるような場所にしたいですね。

区民ボランティアは全部で6人。今回お話を伺った4人の皆さんと、早藤 百合子さん、伊藤 満子さん
が作成委員として活躍しています。

札幌国際大学

新たなビジネスの創造につなげたい

学生も協力して作成しているこの「きよたん」が、高齢者の役に立つだけでなく、新たなビジネスの創造につながっていけばと思っています。

区内には、高齢者向けのサービスが不足していたり、失われてしまった地域があるかもしれません。「きよたん」の完成でそういった地域が明らかになれば、これをチャンスにして、例えばそこで青空市を開いたり、移動販売車を呼び込むというのはどうでしょうか。

また一つの店ではできないことも、ぜひ商店街で力を合わせて、奮起してもらいたいです。「うちもこんなことやってるよ」という声があれば、それを改訂版に掲載していきたいですね。

また、お店を経営する方が「きよたん」に触発されて、高齢者にやさしいサービスが増えるなど、この「きよたん」がいろいろな形で起爆剤になってほしいと思っています。



現代社会学部
ビジネス実務学科
いいた しょうじ
飯田 俊郎 教授

清田区地域包括支援センター

高齢者にやさしいサービスが増えるきっかけにしたい

ボランティアの皆さんは地域のことをよくご存じて、その情報網を発揮していただいています。

1回の発行で終わらず、さらに内容を充実させて発行を続けたいと思っていますので、新たな情報を提供してくれたり、作成に参加したいという方が出てきてくれたらうれしいですね。

また、お店を経営する方が「きよたん」に触発されて、高齢者にやさしいサービスが増えるなど、この「きよたん」がいろいろな形で起爆剤になってほしいと思っています。



委員の皆さんの思いが込められた「きよたん」。3月中の完成を目指していますので、ご期待ください!!